デフアスリートをささえる

競技別手話言語通訳ガイド［卓球編］

Table tennis

ごあいさつ

全日本ろうあ連盟
スポーツ委員会委員長
小椋 武夫

スポーツ庁は「する・みる・ささえる」といった多様なスポーツライフを通じて、スポーツ参画人口の拡大を目指しています。アスリートのプレーを「みる」、ボランティアの「ささえる」活動を通して、「する」スポーツへの興味が喚起され行動へとつながることが期待されており、きこえない人のスポーツ活動を通した社会参加と共生社会の実現にも通じる取組になります。

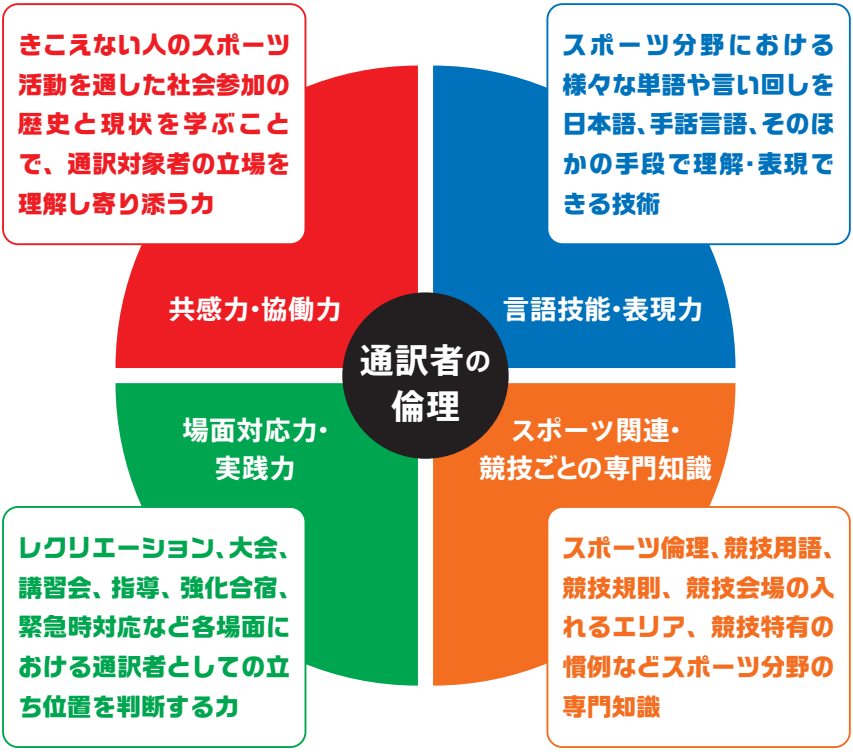
きこえない人がアスリートのプレーをみるためには、スポーツ施設の情報アクセシビリティ向上、放送の字幕・手話言語付与などの整備が進められています。

一方、きこえないアスリート（デフアスリート）がスポーツをするにあたっては、スポーツ関係者によるきこえないことや手話言語への理解促進とともに、デフアスリートのスポーツ活動をささえる手話言語通訳者の育成が重要になっています。

本委員会が受託しました、スポーツ庁の令和3年度「障害者スポーツ推進プロジェクト事業」は、スポーツに精通した手話言語通訳者の育成を主な目的としています。そこで、スポーツ分野で通訳者が準備すべき内容の基礎として、きこえない子どもが最初にスポーツに参加するきっかけとなる学校体育や部活動、そして大会参加について紹介するパンフレットと、専門種目として、陸上競技、卓球競技を解説するパンフレットを製作しました。スポーツ活動の現場で通訳を行う方々の知識と技術の向上にこれらの手引が役立つことを願っています。

スポーツ分野で通訳するための準備

きこえない人のスポーツ活動を通した社会参加を支える手話言語通訳者が、通訳者としての倫理観を備えた上で準備しておくべき知識と技術を、「共感力・協働力」、「言語技能・表現力」、「場面対応力、実践力」、「スポーツ関連・競技ごとの専門知識」の4テーマに整理しました。



このガイドブックでは特に卓球競技に必要な知識を紹介します。

〈 ろう者と卓球競技 〉

卓球競技には男子団体、女子団体、男子ダブルス、女子ダブルス、混合ダブルス、男子シングルス、女子シングルスの7種目があります。

競技ルールは一般と同じで世界卓球連盟（以下、ITTF）の競技規則に従って行ないます。そのため、国内ではろうの選手が地域の大会に出場する際に、会場でのルール説明、場内アナウンスの内容や誘導での情報保障の面で多くの課題が残ります。

ろうの選手が出場するデフリンピック競技大会などの国際大会ではICSD(国際ろうスポーツ委員会)規定による補聴器を外すルールが存在し、競技エリア内で補聴器を装用していると失格になります。

選手登録については、デフリンピックなどの国際ろう者スポーツ委員会（以下、ICSD）出場のためには、全日本ろうあ連盟、日本卓球協会、日本ろうあ者卓球協会の会員である必要があり、それぞれ在住地域の協会での登録が必要になります。

主な大会

①国内大会（全国レベルまでの一般の大会も含む）

- **国民体育大会**（日本スポーツ協会主催）
- **全国障害者スポーツ大会**（日本パラスポーツ協会主催）
- **全日本卓球選手権大会**（日本卓球協会主催）
- **中体連、高体連、日学連、実業団、Tリーグの大会**（日本卓球協会傘下団体）
  （全中、インハイ、インカレ、マスターズ、レディーズ、Tリーグ等）
- **全国ろうあ者体育大会**（全日本ろうあ連盟主催／1967年～）
- **全国ろうあ者卓球選手権大会**（日本ろうあ者卓球協会主催／1978年～）
- **全国ろうあ者卓球リーグ戦**（団体、個人）（日本ろうあ者卓球協会主催/2013年～）
- **全国聾学校卓球大会**（1964年～）（全国聾学校体育連盟主催）

この他にも、これらの全国組織の傘下団体（都道府県及び市区町村の協会）が主催する大会も多くあります。

②国際大会（ICSD公認大会）

- **夏季デフリンピック競技大会**
- **世界ろう者卓球選手権大会**（2008年～）
- **世界ユースろう者卓球選手権大会**（2023年～）
- **アジア太平洋ろう者競技大会**

卓球の用具

1 ▸▸▸ [卓球台について]

国際卓球連盟と日本卓球協会が公認している卓球台の公式規格サイズは、長さ274cm、幅152.5cm、高さ76cmのテーブルで、ネットの高さは15.25cmです。略して「台」とも呼びます。材質は木と決められている訳ではありませんが、競技用には木製のものを使用しています。

サイズが中途半端な数値になっている理由は、長さ9フィート、幅5フィートと決めたものを、途中からメートル法に切り替えたためです。エンドラインとサイドラインは幅2cm、センターラインは幅3mmで、これらのラインはすべて白線です。1921年に日本で最初の卓球ルールが作られたときには、卓球台の色は濃緑色でした。

国際ルールが「ダークカラー」であったことから、日本では「暗色」と誤解し、1989年まで暗い色を使用していましたが、「濃色」と理解してからは明るいブルー、またはグリーンが卓球台に使われるようになりました。

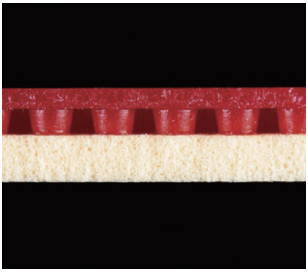
2 ▸▸▸ [ラケットの種類とラバーの特徴(写真)]

ラケット

シェークハンド

ペンホルダー

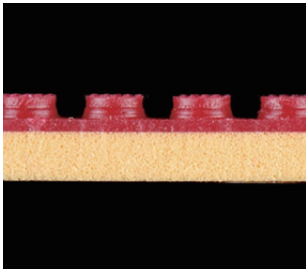
ラバー



裏ソフトラバー

回転がかかりやすい

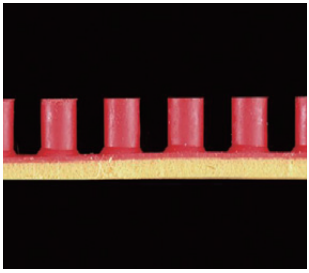
引っかかり易い特性である。



表ソフトラバー

スピード重視

球離れが速い特性である。



粒高ラバー

独特の変化が出せる

粒が曲げやすい特性である。

卓球の戦型

ドライブ主戦型

裏ソフトラバーを使いトップスピンをかけたドライブ打法を中心に戦う戦型

前陣速攻型

台の近くでピッチの速さで勝負する。スマッシュを中心に戦う戦型

カット主戦型

台から離れてバックスピンをかけたカット打法で戦う戦型

卓球のボールは直径40mm、重さは2.7gで、またはプラスチック製で、色はホワイト、またはオレンジ色の球体と定められています。

1924年の第1回大会から2000年の大会まで、直径38mmのボールが世界選手権で使われていました。その後「もっとラリーが続き観客に見やすくしたい」と言う理由で、球速・回転変化とも少し低下する40mm玉を使うルールに改正されました。

また以前はセルロイド製のボールが使用されていましたが、2015年からプラスチック製のボールに変わりました。

プラスチックは、従来のセルロイドに比べ、ボール自体が弾まず、回転もかかりにくくなり、エキサイティングなラリーが増えました。

卓球の基本技術

サービス

広げた手の平にボールを置いて、真上に16cm以上トスし、ボールが落ちてくるところを打球します。回転やスピードなどの変化をつけるため、多様なサービスがあります。

回転の種類：下回転、上回転、横回転、横下回転、横上回転、ナックルなど

〈サービスの出し方の例〉

バックサービス

しゃがみ込みサービス

YGサービス

巻き込みサービス

レシーブ

相手の強打を防ぐレシーブや、ポイントを狙う攻撃的なレシーブなど、様々なレシーブがあります。

ストップ：相手の台上で2バウンド以上するように返す
フリック：台上で小さくはじくように打つ
チキータ：バックハンドを使い、台上で横上回転をかける
ミュータ：バックハンドを使い、チキータとは逆の回転をかける

打法

フォアハンド、バックハンド、スマッシュ、ブロック、ショートなど様々な打法があります。

ツッツキ：下回転のボールに対して、打球面を斜め上に向けて「突っつく」ように打つ
打法ドライブ：ボールを上方向にこすり上げて、強い上回転をかける打法
カット：台から離れて、相手のドライブボールに対しラケット上から下に振り、強い下回転をかける打法
裏面打法：ペンホルダーラケットの裏面に貼ったラバーでバックハンドを行う打法

卓球のルール

①試合の流れ

1試合（1マッチ）は3ゲーム、5ゲーム、7ゲームなどで行われます。試合ではトスを行い、サービス（またはレシーブ）、エンドを決定してから行います。サービスは2ポイントごとに交替し、11ポイント先取で1ゲームが終了します。ただし、10対10になった場合（デュース）では、サービスは1ポイントごとに交替し、2ポイント差になるまで行います。次のゲームではエンドを交替します。フルゲームの試合の場合、最終ゲームではどちらかが5ポイント先取した後、エンドを交替します。

②打球のルール

サービスは、ボールを投げ上げてから打球する瞬間まで相手にはっきり見えるようにしなければなりません。手や体でボールを隠した場合はミスとなります。ラリー中のネットイン（ネットに当たって相手コートに入る）は正規の返球となります。サービスの場合はノーカウントでやり直しをします。打球が相手コートの縁（エッジ）に当たった場合も正規の返球となります。ただし、台の側面（サイド）に当たった場合はミスとなります。打球時にラケットではなく手に当たった場合は、手首より先なら正規の返球としてみなされます。打球時にフリーハンド（ラケットをもっていない方の手）が台に触れた場合はミスとなります。

③アドバイスのルール

試合では、選手は決められたアドバイザー（団体戦ではチーム誰からでも）からアドバイスを受けることができます。現在、大学生や一般の試合では、競技の進行遅らせることがなければ、ラリー中を除いていつでもアドバイザーからアドバイスを受けることが認められています。しかし、高校生以下の大会では、選手がアドバイスを受けることができるのは、ゲーム間の1分間の休憩中やタイムアウト時に限られています。ゲーム中のアドバイスと受け取られる発言やゼスチャーについては警告が出され、くり返されるとアドバイザーは退場となります。

④ダブルスのルール

ダブルスではパートナーと交互に打球します。ゲームごとにサーバー、レシーバーの組み合わせを交替して行います。フルゲームの試合の場合、最終ゲームではどちらかが5ポイント先取した後、エンドおよびレシーバーを交替して偶数ゲームと同じサーバー、レシーバーの組み合わせで行います。

⑤バッドマナーについて

選手、監督、コーチ、アドバイザーが、大声で叫ぶ、汚い言葉を使う、相手競技者を威嚇する、故意にボールを潰したり競技領域外に打って出す、卓球台やフェンスを乱暴に扱う、競技役員の指示を無視するなどの行為がバッドマナーとなります。バッドマナーに対しては、1回目はイエローカードが提示され警告されますが、くり返される場合は対戦相手にポイントが与えられることもあります。

試合前後には握手する

ネットインなどラッキーな得点をしたときには軽く手を挙げる

写真提供：卓球王国

卓球での手話言語通訳の任務

卓球の試合では、ゲーム間の1分間にベンチコーチからアドバイスをすることができます。(大会によってはできない場合もあります) 時間が限られているため、短時間で伝えたい情報を的確に選手に伝えなければいけません。

サービス、レシーブの種類やコース、相手の戦型に応じた戦術などを正確に伝えるには、通訳者も卓球に関する知識を持った上で通訳することが必要です。『フォア前のサーブ』と言ったときに、どちらが出したサーブか、どんな回転のサーブか、どの場面のことかを理解した上での通訳が大事です。

また、頻繁に使用する言葉(例えば下回転、横回転、ナックルなど)はあらかじめ選手とサインを決めておいて通訳するのも良いでしょう。

Point! **アドバイスの注意**

大学生や一般の大会では、競技を中断することがなければ、ゲーム中のアドバイスも認められています。そのため、競技中に監督やコーチの発したアドバイスを通訳し、選手に伝えることは必要です。

しかし、高校生以下の大会では、決められた時間以外のアドバイス(ゼスチャーを含む)は禁止されています。試合が白熱し、思わず監督が口に出した言葉などを通訳して選手に伝えると、アドバイスとみなされ警告を受ける場合もあります。

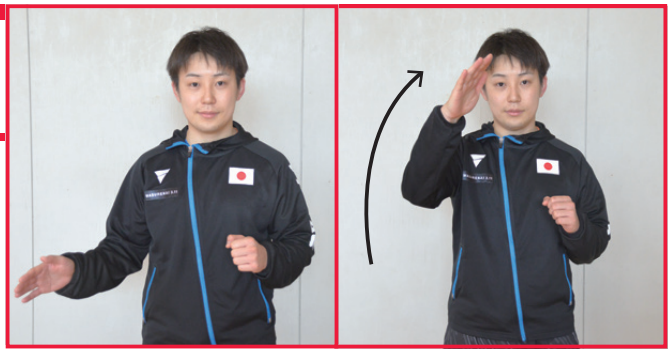
合宿や講習会では、講師が技術を披露しながら解説する場面があります。講師のラケット位置や角度が選手から見えるよう、遮らない位置に立ち、通訳を行います。

選手の技術力や知識によって理解力が異なるので、選手の様子を見ながら、必要なら図示するなどの工夫が必要です。

卓球の用語と手話言語表現

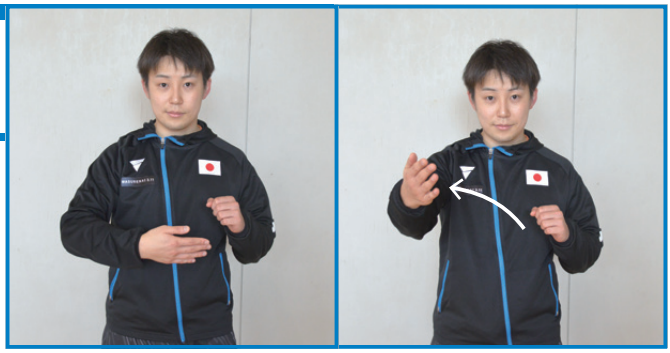
フォアハンド

手の平でボールを打つ
イメージ



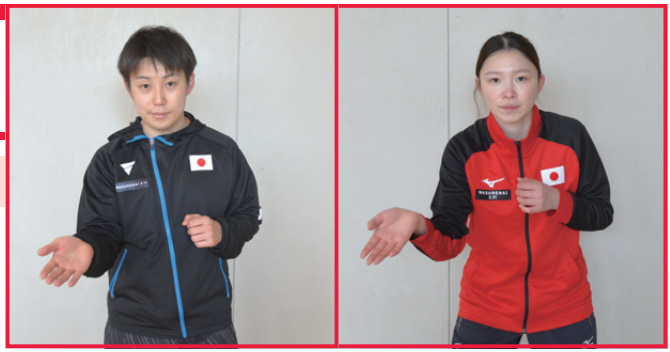
バックハンド

手の甲でボールを打つ
イメージ



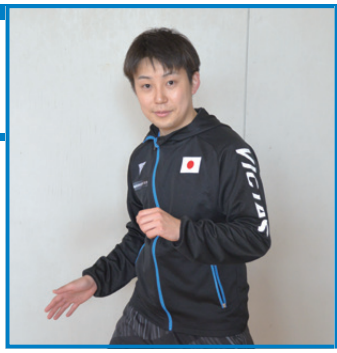
ツッツキ

手を前に刺すイメージ



ドライブ

手を挙げるイメージ



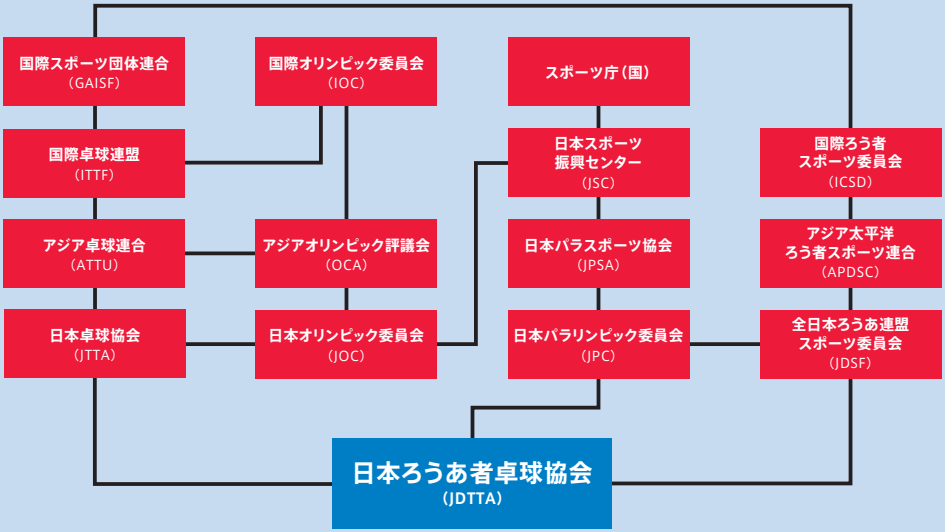
チキータ①

手を下から曲げるように上げるイメージ

チキータ②

手を下から曲げるように上げるイメージ（手の形をLの字にする）

[組織]



一般社団法人日本ろうあ者卓球協会

一般社団法人日本ろうあ者卓球協会は、1995年9月10日に行われた茨城県水戸市での全国ろうあ者体育大会の後、全国の卓球仲間が集まる中で、日本の聴覚障害者卓球競技を代表する唯一の競技団体として初めてスタートしました。その後、2003年3月に公益財団法人日本卓球協会へ加盟、2006年4月に日本パラリンピック委員会へ加盟し、2012年4月に一般社団法人へ移行しました。

[編集協力]

一般社団法人日本ろうあ者卓球協会

このガイドブックは、令和3年度「障害者スポーツ推進プロジェクト（障害者スポーツの指導等に係る競技別の標準化･マニュアル作成等）」（スポーツに精通した手話言語通訳者の育成）の一環で作成しました。

デフアスリートをささえる
競技別手話言語通訳ガイド［卓球編］

発行日　2022年3月31日

発　行　一般財団法人全日本ろうあ連盟
スポーツ委員会
ＴＥＬ：03-3268-8847
ＦＡＸ：03-3267-3445
メール：jfd-sc@jfd.or.jp
ＵＲＬ：https://www.jfd.or.jp/sc/

[参考情報]

日本ろうあ者卓球協会(JDTTA)
https://www.jdtta.com/

日本卓球協会(JTTA)
https://jtta.or.jp/

全日本ろうあ連盟スポーツ委員会(JDSF)
https://www.jfd.or.jp/sc/